研究・調査報告書

報告書番号	担当
１８７	独立行政法人酒類総合研究所

題名（原題／訳）

Association of obesity and diet with adenomatous polyps of the large bowel.
大腸腺腫と肥満、食習慣との関連についての検討

執筆者

藤井寿仁

掲載誌（番号又は発行年月日）

日本大腸検査学会雑誌、Vol.25 No.2 Page.120-125 (2009)

キーワード

大腸腫瘍、肥満、飲酒、喫煙、食習慣

要　旨

大腸ガンは日本人男性におけるガン死亡原因の 4 位、女性における 1 位をしめている。大腸ガンの大部分は大腸腺腫のガン化によると考えられ、大腸ガンの一次予防は大腸腺腫発症の予防である。本研究は大腸腺腫の発症の危険因子を肥満や生活習慣の観点から明らかにすることを目的としている。筆者は平成 18 年 8 月から 1 年間、病院外来を受診し、スクリーニング、便潜血陽性、腹部症状の精査目的で大腸内視鏡検査を受けた 738 例(男性 437 例、女性 301 例)を対象に大腸腺腫と肥満、食習慣との関連について検索した。群間比較は $\chi 2$ 検定を用い、$p<0.05$ を有意差ありと判定した。この結果、大腸腺腫の有所見率は女性より男性、44 歳以下より 65 歳以上または 64～45 歳で有意に高頻度であり、肥満とともに上昇する傾向を認めた。また、喫煙群は非喫煙群に比べて、アルコールを毎日飲む群は付き合い程度の群や飲まない群に比べて、大腸腺腫の有所見率は有意に高頻度であった。食習慣に関しては、バランスよく食事するか、野菜をよく食べるか、果物は毎日食べるか、タンパク性食品を食べるか、牛乳を毎日飲むか、油料理をよく食べるか、海草類をよく食べるかの 7 項目について調べたが、いずれも有所見率の間には有意な所見は認めなかった。しかしながら、野菜摂取は大腸腺腫多発に対して抑制的に作用することが示唆された。以上より、大腸腺腫の発生および大腸癌の一次予防の観点から、肥満、喫煙、飲酒や食習慣などの生活習慣への対策が必要と考えられる。